

臨床研究「Spinal extradural arteriovenous fistula の分類と各疾患群における臨床症状、血管構築、治療成績の検討：全国調査」について

筑波大学附属病院脳卒中科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

脊髄硬膜外動静脈瘻は、硬膜（こうまく）という脊髄を覆う膜の外側の部分で動脈と静脈が直接交通し、圧の高い動脈の血液が静脈に流れ込む病態です。このため様々な症状を起こし、脊髄の静脈に逆流した場合には麻痺や排尿、排便障害や感覚障害など重篤な症状をきたすことや、神経を圧迫した場合にはその神経の障害を起こすことがあり、診断と治療が重要な疾患です。治療法としては血管内治療（塞栓術（そくせんじゅつ）、外科手術があり、最近では体への負担が少ない治療であることから血管内治療が選択される機会が増えています。しかし、脊髄硬膜外動静脈瘻は複数の異なる疾患の総称であり、その詳細な分類や各疾患群の特徴には、いまだに不明な点も多くみられます。本研究の目的は、脊髄硬膜外動静脈瘻の血管構築や疾患分類と各疾患群の治療成績を明らかにすることです。

② 研究対象者

この研究は以下の方を研究対象としています。

平成 23 年（2011 年）1 月～令和 2 年（2020 年）12 月までに本院で脊髄硬膜外動静脈瘻に対してカテーテル治療を受けられた方

③ 研究期間：（倫理委員会承認日）～2024 年 4 月 30 日

④ 研究の方法

脊髄硬膜外動静脈瘻に対してカテーテル治療を受けた患者さんの、下記（⑤）の診療情報を調査します。通常の診療範囲内で行われる登録研究です。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

- ・ 年齢、性別
- ・ 病変の血管構築
- ・ MRI・CT 所見
- ・ 治療内容
- ・ 治療結果

⑥ 試料・情報の第三者への提供について（該当する場合は記載）

医療データは、患者さんを直接特定できる情報（お名前やカルテ番号など）を削除して匿名化しますので、当院のスタッフ以外が当院の患者さんを特定することはできません。

この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その場合でも上記のとおり匿名化していますので、患者さんのプライバシーは守られます。医療データの登録を拒否され

た場合には、拒否された患者さんのデータは削除します。なお、この研究は、国の定めた指針に従い、当院の研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

大分大学放射線部准教授 清末 一路

⑧ 研究機関名および研究責任者名

聖路加国際病院神経血管内治療科部長	新見 康成
筑波大学脳神経外科脳卒中予防・治療学講座教授	松丸 祐司
岡山大学脳神経外科助教	平松 匡文
東海大学脳神経外科講師	Kittipong Srivatanakul
藤田保健衛生大学脳卒中センター教授	中原 一郎
久留米大学放射線医学講座講師	田上 秀一
虎の門病院神経血管内治療科部長	鶴田 和太郎
福岡大学筑紫病院脳神経外科講師	新居 浩平
福岡大学筑紫病院脳神経外科教授	東 登志夫

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：脳卒中科 松丸祐司 細尾久幸

029-853-3900（平日9～17時）